

令和元年11月29日招集

第5回小坂町議会（定例会）

発言通告書

発言順	議席番号	氏名	発言の種別	出席要求者
1	10	小笠原憲昭	一般質問	町長・教育委員会の教育長
<p>(発言の要旨)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ジャガイモ栽培について 2. 災害対策について 3. 国際交流について 4. 地域運営学校制度について 		<p>(発言の内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの経緯と今後の展望について 1. 土砂災害、河川氾濫への対策について 1. JICA研修事業はどのようになっているか 1. 制度導入の考えはあるか 		

発言順	議席番号	氏名	発言の種別	出席要求者
2	1	鹿兒島 巖	一般質問	町長・教育委員会の教育長
<p>(発言の要旨)</p> <p>1. 加齢性難聴者に対する補聴器購入補助について</p> <p>2. 多角的農業経営への展望と畑作振興センターの位置づけについて</p> <p>3. 近年の自然災害の多発化・甚大化にかかわって</p>		<p>(発言の内容)</p> <p>1. 人間は誰でも加齢とともに高い音域から徐々に聞こえにくくなり、70歳以上の半数に難聴があるといわれている。</p> <p>言葉が聞こえにくくなると認知機能が低下し、コミュニケーションにも支障が出て社会的にも孤立しがちとなることで認知症のリスクが高まるといわれ、また難聴になったら出来るだけ早い補聴器の使用が聞こえの改善にとって大切ともいわれている。</p> <p>高齢化率が40%を超える町民にとって深刻な問題であるが、補聴器は高価で、年金暮らしの高齢者にはなかなか手が届かないことから、加齢性難聴者に対する補聴器補助制度の創設を提言したい。</p> <p>多角的な農業経営にとって新たな拠点となる畑作振興センターが完成し、稼働を開始したところであるが、問題は折角の施設が有効に活用出来るかにかかっていると考える。</p> <p>1. 施設の内容・能力について農業者への周知・理解を得る取り組みが必要と考えるが具体的な計画はどうか。</p> <p>2. 畑作物の計画的作付け・収穫など、農業者との連携と調整の成否が施策の成果にかかわると考えるが、これらの機能を担う体制はどうか。</p> <p>3. 地産地消と食育に関する条例との関わりをどう考えているか。</p> <p>近年自然災害は多発化・甚大化の傾向を強め、今年も自然災害が多発し、被害も甚大となっており、これまでの防災対策の見直し強化が必要と考える。</p> <p>1. ハザードマップの見直し、周知への工夫が必要と考えるがどうか。</p> <p>2. 災害対策本部や職員出動態勢、町民への広報・避難誘導體制などの見直しは必要ないか。</p>		

発言順	議席番号	氏名	発言の種別	出席要求者
2	1	鹿兒島 巖	一般質問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		<p data-bbox="614 389 799 423">(発言の内容)</p> <p data-bbox="595 439 1414 517">3. 災害ゴミの焼却灰が一般廃棄物焼却灰としてグリーンフィル小坂（株）へ、近々搬入開始となると聞く。</p> <p data-bbox="614 533 1414 667">災害ゴミの処理問題は、災害復興に重い足かせとなっており、その処理に協力することは有意義と考えることを前提に、その受け入れでの課題について提言したい。</p> <p data-bbox="614 683 1414 907">災害ゴミには通常的一般廃棄物以外の多様な物質、中には危険物等も含まれている可能性があることから、焼却灰を受け入れる場合、含まれる危険物質等の検査を義務づけること。危険物の種類によっては搬入を認めないあるいは制限すること。</p>		

発言順	議席番号	氏名	発言の種別	出席要求者
3	11	熊谷 聡	一般質問	町長
<p>(発言の要旨)</p> <p>1. 食品ロスに対する町の考え方</p>		<p>(発言の内容)</p> <p>食品ロス削減推進法が施行されました。</p> <p>1. 町では、どのような取り組みをしているか、取り組みの内容を教えてください。</p> <p>2. これからどのように取り組んでいくか具体的に教えてください。</p> <p>3. 30年までに食品ロスの半減を目指すとするが出来るのか。</p>		

